

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 30

2019年6月11日（火）発行

発行責任者: 草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所: 〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

他人（ひと）の子も、 正しく叱る、思いやり 白梅学園理事長 井原 徹

このたび白梅学園の理事長として着任しました。地域の皆様の日ごろのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。このたび、着任にあたって寄稿するよう依頼を受けましたので、日ごろ感じていることを書いてみました。

「他人の子（ひとのこ）も、正しく叱る、思いやり」というアナウンスが、いつもバスで流れる。警察標語なのだろうか。

先ず率直に感じるのは「そんなこと、簡単にはできないよ。」という思いであろう。どんな状況であれ、他人の子を叱ったら、その親から怒鳴り込まれそうだからである。「子」というのが、小学生、中学生くらいを指すのならともかく、高校生以上の人へにへたに注意したら殴られそうである。

私が中学生のときだったと思うが、自転車で隣の村に仲間と遠征して遊んでいたときに、見ず知らずのおじさんから叱られたことがあった。何か悪いことをしたのだらう。

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

う。「お前はどこから来たのだ。」「隣の村です。」「名前はなんていうのだ。」「井原です。」「井原と言えば、あの井原孝平さんの息子か。」「そうです。」といったやり取りが続いたあと、そのおじさんがこう言って私をたしなめた。「お前の親父の孝平さんは立派な方だ。よく知っている。その息子がこんな悪さをしたら、親父さんに恥をかかせることになるのだぞ。二度とこんなことをしてはいけない。」と自分の親父が隣の村の大人たちに尊敬されているという事実を知って、背筋が伸びる思いであった。「すみませんでした。もうしません。」と謝って家に帰った。

それ以来、親父をみる目が変わった。明治の終わりの生まれで、176センチ・90キロの大男だった親父。ものすごいスパルタ教育であり、怖いということすら思う暇なく叱られ、殴られていた。親父が嫌いではなかったけれど、決して好きとか感謝を感じることはなかった。しかしこの一件以来、親父を尊敬する気持ちになった。「他人の子（ひとのこ）も、正しく叱る、思いやり」は、こうした状況の中では成り立つかもしれない。

この標語が良くできていると思うのは「他人の子も」の「も」であろう。自分の子だけではなく、という意が含まれている。「正しく叱る」の「正しく」は相当難しい。どう叱るのが正しくて、どう叱るのが正しくないかが、叱る人の判断に任されている。正しい叱り方とは、多分「愛情をもって、あるいは成長を願って叱る」ということになるのだらうと思

う。正しくない叱り方とは、多分怒りにまかせて怒鳴ったり、殴ったりすることだろう。正しく叱ることができれば、それは「思いやり」になるのだとは理解しても、そうまく叱れるかどうかは問題ではある。

さて、私たちが住む地域ではどうであろう。昨今は隣り

近所の交流が薄れてきているように思う。私事に首を突っ込むのは止めた方がよいとは思いますが、「ほんわりとした近所付き合い」まで無くしてしまうことは避けたいものである。

世代間交流と生涯発達で地域の共生を

日本世代間交流学会第10回大会実行委員会

実行委員長 森山千賀子（白梅学園大学）

日本世代間交流学会第10回大会を、10月6日（日）に白梅学園大学・短期大学で開催することになりました。また今回は、白梅学園大学・短期大学子ども学研究所並びに小平西地区地域ネットワークとの共催で行われます。

近年の人間を取り巻く社会環境は、経済発展やネット社会の進展にともない、直接的なコミュニケーションを希薄にし、人間の連帯を奪いつつあります。それは本学が位置する小平市周辺地域においても、例外ではありません。本学では、2004年度より、「子育て支援ネットワークづくり」に関する調査研究を行い、2006年度からは、ソーシャル・キャピタルの概念を「人間発達資源」（人間の正常な発達を支える資源）とも位置づけ、地域における「人と人とのつながり」について検討してきました。その研究を通して、地域の豊かな人間関係が人間への信頼を高め、子育ての喜びや生きがいをもたらすことを確認してき

ました。また、東日本大震災での体験を契機に、本学の教員有志が本学周辺の民生・児童委員、NPO 団体、高齢者クラブなどに呼びかけ、お互いの顔の見える地域づくりを目標に、「小平西地区地域ネットワークづくり」の取り組みを始め、8年目に入ります。

本大会では、「世代間交流と生涯発達で地域の共生を」をテーマとし、あらゆる世代の人間の生涯発達とよりより地域共生社会の実現にむけて、研究者と実践者がともに集い、育ち合える場になればと考えております。

当該開催校は、万葉集にもたびたび登場する”武蔵野”台地の西側に位置し、かつて江戸市中へ飲料水を供給していた、玉川上水が流れる地域にあります。都市中心部から少し離れた場所ではございますが、秋の武蔵野の自然をもご堪能いただきたく、多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

白梅子育て広場

「四月あそぼうかい&世代間交流」報告

仲地一世（発達臨床学科2年）

4月27日土曜日、2019年度初の「あそぼうかい&世代間交流広場」を開催いたしました。5月1日から元号が「令和」へと改元される直前ということでテーマを「へいせいたんけんたい！」とし、これまでの時代を振り返り平成を感じてもらえるような企画を考えました。子どもたちには自分が生まれた元号がどのような時代だったのか、大人の方々には自分が今より若かった頃に懐かしさを感じて

もらいつつ楽しんで頂けるコーナーを学生みんなで作りました。また、今回は4月に入学した1年生にとって初めての「あそぼうかい」となりました。上級生と共に活動し交流を深めつつ、1年生の新しいアイデアを企画作りに盛り込んでいきました。

当日は雨が降ったり止んだりという不安定な天候でしたが、それでも昨年以上に多くの参加者さんにご来場いた

できました。平成に流行したファッションを組み合わせて子どもたちが思い思いのオリジナルファッション作りを楽しみ、平成に出版された絵本のカルタを通して子ども同



士が交流する様子が見られました。子ども自身が工夫して考える力、継続する力を育てるゲームとして学生が制作した段ボール UFO キャッチャーはとても好評で、上手くいかなくても諦めることなく子どもたちが何度も挑戦し、そんな子どもたちに学生が応援して声をかける姿が見られました。演劇では平成の時代をタイムトラベルしつ

今と昔の違いを比較して表現されており、昔はこうだった



んだという子どもたちの驚く姿が見られました。

今回も最後まで多くの参加者さんに楽しんで頂いた「平成最後のあそぼうかい」となりました。次回の「あそぼうかい&世代間交流広場」は7月6日土曜日、令和初の開催となります。今回の経験を経て、より良いあそぼうかいを目指し学生たちがまた様々な趣向を凝らして頑張ります。今年度も、そして新元号においても「白梅子育て広場」をよろしくお願ひいたします。

生徒の意欲を大切に

分かった会講師 長谷川潤一



私は学生時代の家庭教師しか教えた経験がありませんが、将来を担う若者のお手伝いが少しでもできれば、という気持ちで「分かった会」(以下「会」)に参加しました。意欲はあるが、基礎が分らない、塾に通えない、などの生徒がこの「会」に来ている筈だから、当然積極的に質問してくる、と思い込んでいました。

ところが、質問をしない生徒や、漢字書取りや歴史等

の学習をしているので出番がない状況が多く、かなり違和感を覚えました。

自主的な勉強の邪魔はしたくないし、教えられない(或いは必要とされていない)なら、「会」そのものが無駄ではないのかも感じました。しかし幾度か通って来るうちに、質問も出始め、また、雑談も交せるようになって、生徒との距離は少しずつ縮まってきたように、最近では感じております。

週一回、夜の6時から2時間だけですが、その時間に集中すること、正答よりむしろプロセスが大事なこと、常に辞書を引くこと、などについて指導しているつもりです。

小平一中でも、不定期ですが、放課後に教室で指導しています。コーディネーターが先生との間を仲介(宣伝)しているので、先生に言われて来る生徒も見受けられます。

「会」も一中も、勉強がわからない生徒が来ることに変わりはありません。指導の巧拙は重要と思いますが、何にも増して本人の意欲に負うところが大きいと感じます。

「用の美」

—大人の憩いの場を創る「いずん堂」—



西ネットの地域には色々な人が生活したり働いたりしています。

朝鮮大学校前から武蔵野美大へ行くバス通りより一つ東の美大への歩行通り、その中ほどで、ふと足を止めると、素敵なお店に出会います。大人の憩いの場＝いずん堂です。8年前から、玉川上水の近くで静かなところを求めて開店、主は下記のような思いをともにしたカップルです。

店の中は落ちついていて、奥深い美しさがあります。それはどこから来ているのでしょうか。お店のモットーは、自分たちが「好い(いい)な」と思える時空間を創ろうとしているところです。そのベースには、

「用の美」という、民芸運動の提唱者・柳宗悦(むねよし)たちの考えがあるそうです。それは、用つまり生活と美しさの統合を意味します。見えるところにも見えない所にもそのこだわりが刷り込まれています。

メニューはカフェとしてはさまざまな国の茶・酒、新鮮なジュース、手作りお菓子等、食事としては、パスタにキッシュ、曜日限定のお米プレートなどです。野菜は地域のもが使われています。内容は旬の食材に合わせて毎週変化しています。お米プレートでは多様な調理法で毎週創作料理が供されます。

日頃あわただしい生活の中で大人が自分を取り戻すひと時を過ごす場所になればと願っています。また、ワイワイ、ガヤガヤではなく、静かに考えたりじっくり話込んだりという事や一人一人に行き届いたサービスをという面から少人数でのご利用をお願いしています。

実際、ちょっと座っていると、形容詞は一人一人によって異なると思われませんが、まさに自分と向き合う自身の時空を感じてきます。

「衣食住 そこにこそ美を 取り入れる
若き二人の 夢よ地域に」

聞き取り 金田利子・瀧口優

「朝鮮歴史博物館を見学して感じたこと」

小平市地域包括支援センター十やきの郷 野村 典子

去る3月19日、綺麗な芝生と梅の香が広がる朝鮮大学校内にある「朝鮮歴史博物館」を西の風メンバー7名で初めて見学させて頂きました。

当日は、館長先生のご案内のもと、悠久の歴史の中をタイムマシンに乗って旅したかのような、贅沢で素敵な時間を過ごさせて頂き、拝見した数々の貴重な歴史資料はまさに圧巻の一言でした。

今回の見学が実現した経緯は、以前に行われた西ネット地域懇談会で西の風のメンバーが館長先生とご一緒

した事から始まりました。様々なお話の中から朝鮮歴史博物館の話題になり「春休みならご案内できますよ」とのありがたいお申し出に、西の風メンバーでお伺いさせて頂くことになったのです。館長先生にはお忙しい中をご対応頂き、この場を借りて再度心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

見学を終えて博物館の外に出ると、お隣の広い大学のグラウンドからサッカーの練習をしている学生の楽しそうな声が聞こえてきました。大学の敷地内にはいくつかの寮

があり、たくさんの洗濯物が気持ちよさそうにゆれていました。その様子はまさに「この同じ地域に住む私たち」というワードがピッタリの光景であり「お互いに支え合い住み慣れた地域で暮らしていく」という地域包括ケアシステムへのつながりを強く感じた瞬間でもありました。

私たち地域包括支援センターでは、この地域包括ケアシステムの一環として「認知症サポーター養成講座」を行っています。この講座は、年齢を問わず皆で認知症についての正しい知識と対応方法学び、認知症の方やその家族を温かく見守り支援する「応援者」になって頂くた

めの講座です。

これらの講座などを通し、朝鮮大学の学生の皆さんにも高齢者や認知症などに関心を持っていただけたら、若いパワーでこの地域はもっともっと住みやすくなるかもしれない・・・とワクワクした気持ちが高まってきました。そのために包括はさらに情報を発信し、皆様と常に連携を図っていくことが大切であると考えています。お気軽に私たちに声をおかけ下さい。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

地域の居場所

「ママと赤ちゃんのおしゃべりスペース

ほっとスペース上水の家」

権田倫子



隔週水曜日の午前10時30分になると、赤ちゃんを抱いたママさんたちが集まってきます。全員揃ったら、ゴンドラハウスの唄を歌って始まります。近くに住む田中さん(ピアノ教師)がリードして、始めと終わり、昼食前に手遊び歌を楽器の伴奏で歌います。ベビーリトミック続けていると、赤ちゃん達の耳は敏感で、生後2~3ヶ月頃から、リズムを身体で覚え、元気に動き回る頃には、卒業してそれぞれ保育園や地域の集まりへ。出産後の母乳育児支援の助産所として上水の家を開設したのは2001年の秋。開設のきっかけは、産婦人科医の鮫島氏との出会い、授乳中頻回のおっぱいトラブルに悩んでいたママの一言でした。「お出かけしてゆっくりおしゃべりがし



たい」当時は、現在程子育て支援の広場事業は充実していなかったもので、一緒に食事をしながら、情報交換や、先輩ママの体験を聞く事の出来るスペースは好評で、年間延100~120組前後の母子が参加されて来ております。

今までは仕事優先で職場と家との往復の生活から、親になり、子どもを通して地域への目が開かれるお手伝いを、私自身も元気を貰いながら続けております。もう1つ大切にしていることは、「しっかりご飯を食べよう」と云う事です。特に授乳期の食事は大切で、関心の高まる時期でもあり、家でも作ってみよう、簡単で美味しいレシピの紹介に力を入れております。

3月地域懇談会報告

映画『ケアニン』を観て

3月9日(土)小平西地区地域ネットワークの2018年度第4回懇談会を開催しました。今回の中心は映画『ケアニン』の鑑賞が中心でした。映画『ケアニン』は、新人介護福祉士と認知症の人との関係を描く映画です。2017年に上映開始され、上映時間は104分、監督は鈴木浩介さん、脚本は藤村磨実也さんが行っています。キャストは戸塚純貴さん、藤原令子さん、山崎一さん、水野久美さんなどです。



介護をテーマにした映画は他にもありますが、『ケアニン』は認知症患者の問題と向き合い、介護業界のことを深く掘り下げたものとしてものとして特別な意味があるという評価です。

物語は介護施設が舞台となっています。主人公の大森圭はあまり強い意志もなく介護専門学校へ進学し、卒業後小規模介護施設で働き始めます。その施設には認知症の高齢者が数多くいて、主人公は当初接し方がわからず、コミュニケーションがとれないで毎日悩みます。

初めて担当につくことが決まりました。一人の女性の認知症の方と関わる中で、接し方に戸惑いながらも周り

のスタッフなどのサポートもあり、少しずつ関係がよくなっていきます。その女性の思いや願いを大事にすることの意味を理解し、最後には「あなたで良かった」ということばをかけられます。「ケアニン」とは「ケア(care)する人」という意味です。

HPの解説に寄れば、映画『ケアニン』製作のきっかけは「介護という仕事の魅力を伝えたい」ということだったこともあり、魅力ややりがいから『ケアニン』の製作ポイントになっています。介護と聞くとどうしても「大変」「辛い」という印象があり、一般的に明るいイメージではありません。介護業界の人材不足といわれる中で魅力を伝えるために製作され、「こんな素晴らしいこともある」ということを伝える内容が描かれています。大変さだけではなく介護の仕事、そしてやりがいにもスポットをあてた作品です。

映画鑑賞の後はいつものように4つのブロックに分かれて交流や懇談を深めました。土曜日の午後ということで日頃参加できない方々にも参加していただきましたが、逆に平日の夜だったら参加できるのに、土曜日は様々なボランティアがあり参加できないという人もいて、『ケアニン』の上映をまたやって欲しいという声もありました。参加者は30名ほどでした。

なおこの『ケアニン』の続きとして『ピア〜まちをつなぐもの〜』もできています。この映画は在宅医療をテーマにしたもので、人が死ぬ時に医師やケアマネージャー等の周囲は本人の願いや思いをどのように受け止めるべきかを教えてくれます。機会があれば上映したいと思います。

(瀧口)

*ケアニン上映情報

東京都武蔵野市 2019/9/13(金) 13:30~15:15

イベント名:公開講座

会場:武蔵野市役所 811 会議室

主催者:NPO 法人 武蔵野すこやか

お問い合わせ先:hoshida-12@jcom.zaq.ne.jp

電話番号 0422-53-5436

定員:100名

白梅学園大学・短期大学「子ども学研究所」

新規スタートしました

白梅学園大学・短期大学には、この3月まで主に教育研究を基本とする教育・福祉研究センターと地域との連携をすすめる地域交流研究センターがありました。それぞれ独自の役割を持って運営を進めてきましたが、昨年度文部科学省に対して申請するにあたって、白梅が14年前に四年制の大学を立ち上げる時に掲げた「子ども学」研究を本格的にすすめるために、上記の2つのセンターを統合して「白梅学園大学・短期大学子ども学研究所」(以下「子ども学研究所」)として新規のスタートすることになりました。

子ども学の「子ども」をどう捉えるのかという問いも含めて、子どもから高齢者まで生涯の発達を視野に入れた「子ども学」を研究し、その成果を広めていくことを目指しています。そして子ども学研究所の3つの柱の一つに「地域連携」があり、小平西地区地域ネットワークは白梅子育て広場等とともにこの「地域連携」に入ります。

「子ども学研究所」の目的、テーマは、建学の理念「ヒューマニズムの精神」に基づき子どもを取り巻く保育・教育・心理・福祉を始めとした諸問題に対して多角的な調査研究及び実践を行い、その成果を広く社会に示すとともに、地域社会への知的還元と支援、生涯学習を多様に展開して公共の利益に貢献することを目的に設置されました。以下白梅学園大学・短期大学のホームページ(HP)に掲載されている研究所の内容です。詳細はHPをご覧くださいと思います。

■ 研究調査

1. 個人研究、共同研究等、研究活動全般の推進
2. 特定の課題研究の推進
 - ・地域参画調査
3. 各種研究助成に関する情報の収集・発信、募集及び助成の推進

■ 地域連携

1. 地域活動全般の推進
 - ・白梅子育て広場
2. 研究所を中心とした特定の地域課題を対象にした活動の推進
 - ・小平西地区の地域ネットワークづくり
 - ・シチズンシップ教育プロジェクト(以下申し込み受付中です)

7月27日(土)10時～小平市小学生子どもサミット

8月07日(水)10時～小平市中中学生子どもサミット

*会場は白梅学園大学にて

3. 地域課題解決型活動プロジェクトの募集及び助成の推進
4. 外部組織からの委託調査研究活動
 - ・小平市障がい児療育支援等事業(小平市連携事業)
5. 自治体及び産業界との連携
 - ・小平市大学連携協議会～こだいらブルーベリーリーグ～
 - ・ネットワーク多摩

■ 公開講座・セミナーの開催 春夏期

・第13回子ども学講座

【第1回6月29日(土)「子どもの貧困とこども食堂」】

講師:湯浅誠氏 追加申込受付中(先着順)

【第2回7月13日(土)「子どもの貧困問題と社会福祉」】

講師:浅井春夫氏 追加申込受付中(先着順)

・白梅まなびの教室 2019

【第1回7月27日(土)宮沢賢治「オツベルと象」を読むー(労働)の寓話としてー】

【第2回8月3日(土)「もつと魚を詳しく知ろう」】

※小学生以下の参加者は、保護者の同伴が必要です。

■ 機関誌および研究成果などの刊行

1. 研究年報

研究年報<論文・研究ノート・報告>を年1回発行しております。白梅学園大学 短期大学学術リポジトリから内容をご覧ください。

※現在は、教育・福祉研究センター研究年報第1号～第23号がご覧いただけます。

2. 雑誌『子ども学』

・「子ども学 第7号」発行 (2019年5月)

2. 雑誌『子ども学』

・「子ども学 第7号」発行 (2019年5月)

・「子ども学 第6号」発行 (2018年5月)

・「子ども学 第5号」発行 (2017年5月)

・「子ども学 第4号」発行 (2016年5月)

・「子ども学 第3号」発行 (2015年5月)

・「発達障害の再考」PDF (2014年10月)

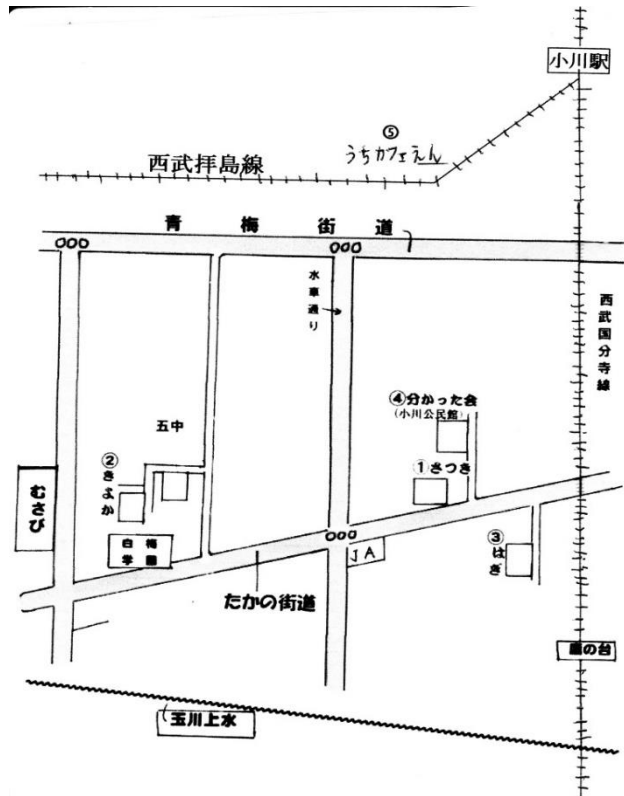
・「子ども学 第2号」発行 (2014年5月)

・「子ども学 第1号」創刊 (2013年5月)

皆さん、コミュニティサロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① ほっとスペースさつき
毎週火曜と木曜 10:00~16:00
問い合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② ほっとスペースきよか
毎週月曜 10:00~15:30
問い合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ アットホームはぎ
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ 「分かった会」小中無料学習教室
毎週木曜日 18:00~20:30 (小川公民館)
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ 子育てサロン「うちかフェス」(小川町)
毎週月・水・木・土 10:00~15:30分
問い合わせ: 伊藤絹代
TEL: 090-5441-6219



西ネットの今後の予定

- 大学世話人会: 6月 18日 (火) 18時~
- 地域世話人会: 7月 09日 (火)
- 大学世話人会: 7月 16日 (火)
- 懇談会: 9月 24日 (火)

イベントの予定

- 06月23日 (日) NPO セミナー (NPO と学生の出会いの場)
- 07月06日 (土) 白梅子育て広場 (午後 13 時 30 分~)
- 07月21日 (日) 白梅子育て広場「あおぞら広場」
- 10月06日 (日) 日本世代間交流学会 (白梅学園大学にて)

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・久 保田進・穂積健児・杉浦 博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。
メール: everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で30号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、7年半この小平西地域の動きを伝えてきました。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています(瀧口)。

